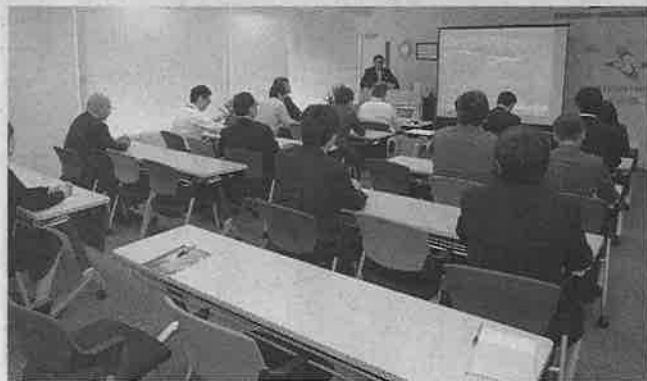


不審者事前検知ソフト発売



不審者事前検知ソフト拡販に向けて行われた社内研修

システムトラスト

カメラの画像で判別

IT関連サービスを展開するシステムトラスト(本社名古屋市中区錦、中浦正浩社長、電話052・212・2951)は、中部地区で不審者事前検知ソフト「DEFENDER-X」の販売を開始した。不審者は緊張に伴い顔が微妙に振動するなど、特有のパターンがあるという。同ソフトは、カメラに映った人物の表情の変化を解析して、約9割の確率で不審者を判別する。年間で50件の販売を見込んでいる。

(倉科信吾)

不審者事前検知ソフトは、ロシアのセキュリティ会社「エルシス」が開発した。システムトラストは、エルシスの日本法人と代理店契約を結んで、中部地区で販売に乗り出した。同ソフトは、公共ホールの玄関口の監視カメラなどに導入する。画像を確認したスタッフが不審者を判別し、すぐに現場に解析結果を連絡すれば、事前に不審者の侵入を防止できる。

また、表情の変化を解析できるため、ATMの監視カメラに映った振り込み詐欺の被害者の表情を解析して、振り込む前に注意を促すという使い方もできる。すでに同ソフトについて、金融機関から問い合わせを受けているという。

録画済みの画像も解析可能。価格はカメラ2台対応で250万円(税別)。現在設置しているカメラに対応できる。

今後は、不審者を判別した際に現場で自動的にアラーム音を鳴らすなど、ニーズに応じて各種のオプション機能の追加も検討している。

また同社は、エルシス社の精神状態を解析するソフト

「メンタルチェック」も同時に販売開始した。対象者の顔の微妙な動きを9分間モニターして、アルツハイマー型認知症やうつ病などを判断する。

問診票は不要で約9割の確率で判定できるという。企業に義務付けられたストレスチェックのツールとして、企業の人事部などに提案を進める方針。